

理源大師の廟塔



百貝岳山頂ハイキング西コース途中にあり、正平24年(1369)の建立。花崗岩造りの極めて精巧な石塔で、国の重要文化財。

百貝岳の大蛇

ひやくかいだけ



理源大師聖宝といえは、平安時代前期の名僧。十六歳で東大寺に入り、真雅を師として出家した。真雅は真言宗の祖、空海の実弟である。以来、三論、法相、華嚴など南都仏教の研究に励んだ。

その一方で、密教の修行も怠らず、金剛葛城や大峰山で厳しい修行を積み、修験道中興の祖としても仰がれた。説話集などによると、豪放な人柄であったらしい。

寛平七年(八九五)、大師は、奈良県の中央部、豊かな自然に恵まれた

吉野郡黒滝村烏住に鳳閣寺という真言宗の寺を建てたとされる。吉野山奥千本の山続き、百貝岳の中腹にある。金剛葛城の連山を望む静かな地だ。寺伝では、もとは修験道の祖、役行者が開いたという。

その頃、大峰山中の滝に大蛇が棲んでいた。人々に危害を加えるため、山で修行する修験者も少なくなり、霊場は荒れていた。

そこで、大師は、奈良に住む修験者の先導者であった屈強の箱屋勘兵衛を連れ、山に登った。そして、法螺貝を吹いて祈祷すると、その音は峰々に響き渡り、まるで百の法螺貝が一度に吹かれたかのような大きな音を立てた。その音で、大蛇はゆっくりと姿を現した。

頭骨が残されている。

ところで、箱屋勘兵衛が奈良から鳳閣寺の大師のもとへ通う時は、いつも大師の好物である餅や飯などを持参した。大師は勘兵衛のことを戯れに「餅飯殿」と呼んだ。それから、勘兵衛の住んでいた町の名も餅飯殿と呼ばれるようになったという。

この珍しい名前の餅飯殿町は、有名な神社仏閣の多い猿沢池近くにある。今は奈良市内有数の商店街として、多くの観光客にぎわっている。

鳳閣寺



百貝岳の中腹にひっそりとたたずむ真言宗のお寺。理源大師が建立したと伝わる。寺に退治された大蛇の頭骨が残されている。

「鳳閣寺」へは…

近鉄吉野線下市口駅より奈良交通バス「黒滝案内センター」下車。(乗換)村ふれあいバスで「烏住」下車徒歩(ふれあいバスの運行については役場へお問い合わせください)

●車の場合は、橿原市から国道169号線(大淀町経由)、国道309号線、県道48号線(河川下市線)で村内へ



黒滝村総務課 ☎0747・62・2031

物語の場所を訪れよう